

序 文

医療はその進歩・発展と専門性の進行に伴い、医師、看護師、その他多くのメディカル職種のコラボレーションが必須となってきました。特に小児医療では、チームを組むメンバー全員の協力が医療の質を決定するまでになっています。質の高いチーム医療を提供するためには、小児の医療に携わる全員が小児の生理学的特性、小児の病態生理、小児疾患に関して共通した基礎的知識を持っている必要があります。

本書は小児医療の現場において、小児医療に関係する各職種の方々に「これだけは知っていてほしい」と考えられる小児科学の要点をまとめたものです。この目的から、執筆者としては現在、看護学科、保健学科、保健福祉学科などで教鞭をとっておられる小児科医を中心とし、この他に現在、小児医療の現場で活躍されながら上記各学科で非常勤講師などの立場で教えておられる方々にお願いしました。

本書ははじめ看護師、助産師、各種メディカル職種を目指している大学生を対象とした教科書として企画されましたが、上述の編集方針で執筆していただいたので小児専門看護師を目指す大学院生、さらには現に小児医療の現場におられる看護師、保健師、助産師、その他のメディカルの方々の参考書としても十分に対応できる内容になりました。

内容としては、看護師などの国家試験に出題された事項・疾病は当然のことながら網羅され、通常の大きさの字で記述されています。さらに高度な「知っておいてほしい」事項や疾病は参考事項として一段小さい字で記述してあります。全体をわかりやすいように2色刷りとし、重点項目を色刷りとしました。

前述の目的に沿うために、本書では系統別に個々の疾患について症状、診断、治療という記載方法ではなく、ある程度グループ化した疾患群について、それらの疾患がなぜ起こり、なぜそのような症状を呈するのかといった「病態生理」をベースとした解説の仕方を心がけました。

全体を通して、項目立てはできるだけ細かくしましたが、それぞれについての解説はなるべく簡潔にまとめてあります。

用語は日本小児科学会編「小児科用語集」に準拠してあり、医学用語、看護用語で読み誤りしがちなものには、読み仮名(ルビ)をふってあります。また臨床現場でしばしば使われる英語は医学看護用語の直後に併記しました。

以上のごとく、本書は「小児科学」という表題ですが、医師対象の書にあるような検査、治療の項目は必要最小限とし、あくまでも小児の生理と病態を理解して、小児医療、ケアに当たることができるような構成となっています。看護、リハビリ、福祉関

係の学生諸君はもちろんのこと、現に小児医療にあたっておられる看護師，その他の職種の方々に活用していただき，より良い小児医療の実現に役立つことを期待しております。

平成18年3月

聖路加看護大学大学院教授 白木和夫
神戸大学大学院保健学研究科教授 高田 哲

本書は2008年に初版が刊行され，今日まで10年が経過しましたが，お陰様で多くの看護・医療関連職教育施設で採用され，今回の改訂第5版を刊行するに至りました。この間に小児医学・医療・保健も著しい進歩，発展を遂げていますので，第5版ではそれらにできるだけ対応するよう改訂を加えております。

より良い小児医療，小児保健の実践にあたっては，医師，ナース，コメディカル各職種の協力，協働が欠かせません。更に近年の社会・文化の変容とともに小児をめぐる環境も大きく変化し，それに対応した看護，支援がますます重要となってきています。単に病児のみならずその家族に対する対応も大切で，必要に応じて記述を加えております。

子どもでは皮膚疾患，耳鼻咽喉疾患，眼疾患，整形外科的疾患，歯や口腔の疾患が少なくありません。これまで本書ではこれらについてまとめては記述されていませんでしたので，今回の改訂版では各科専門医にそれぞれ主要な小児疾患について解説していただきました。

本書が看護基礎教育における小児看護実践能力の向上に寄与するのみならず，小児専門看護師養成や関連各職種の小児診療能力向上のお役にも立てることを祈っております。

平成28年3月

鳥取大学名誉教授・聖路加看護大学元特任教授 白木和夫
神戸大学大学院保健学研究科教授 高田 哲